

ADVANTEST®

2019年度（2020年3月期） 決算説明会

2020年4月24日
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

ご注意

会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



2019年度決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

FY19業績ハイライト

- 半導体の高性能化や信頼性保証強化ニーズの高まりに呼応し、ハイエンドSoC向けで旺盛なテスト需要が継続。メモリについても年度後半より復調
- 新規事業として位置付けているシステムレベル・テスト事業の受注が順調に拡大
- 一部の半導体で在庫調整が長引く中でも、過去最高の受注高を2年連続で更新
- 新型コロナウイルスの感染拡大により年度末から事業活動に制約が生じているが、社内外の努力により売上計画を超過
- FY18からスタートした中期経営計画における計数目標を2年連続で達成

FY19業績概要

(億円)

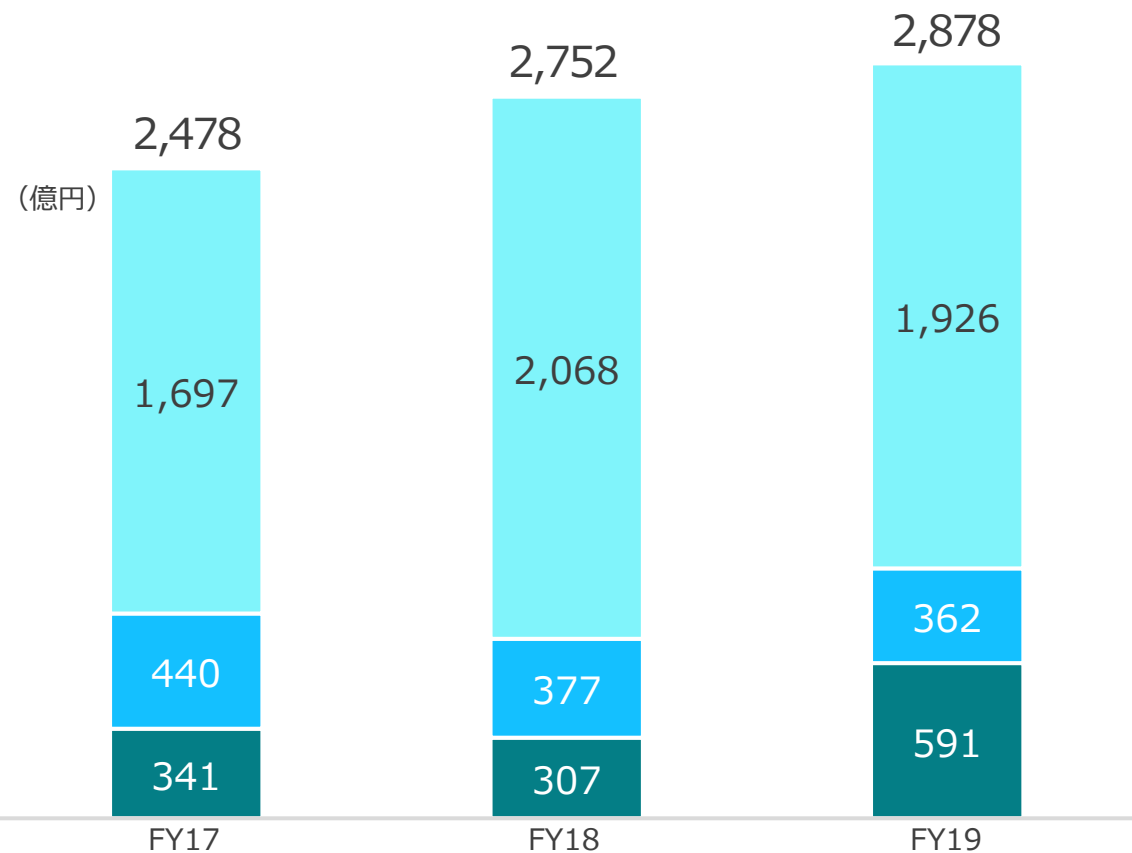
	FY18 実績	1月時点 予想	FY19		
			実績	前年度比	
				増減額	増減率
受注高	2,752	2,700	2,878	+127	+4.6%
売上高	2,825	2,700	2,759	-66	-2.3%
営業利益	647	560	587	-60	-9.2%
営業利益率	22.9%	20.7%	21.3%	-1.6pts	
税引前利益	662	567	586	-76	-11.5%
当期利益	570	490	535	-35	-6.1%
当期利益率	20.2%	18.1%	19.4%	-0.8pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	-30				
事業譲受、M&Aに伴う受注残の増加	+24		+42		
受注残	749	749	910	+161	+21.6%
為替レート	1米ドル	110円	108円	109円	1円 円高
	1ユーロ	129円	121円	121円	8円 円高
1株当たり配当額（年間）	92円	75円	82円	-10円	

[配当性向: 30%]

[配当性向: 30%]

FY19受注実績 年度比較

<事業別受注>



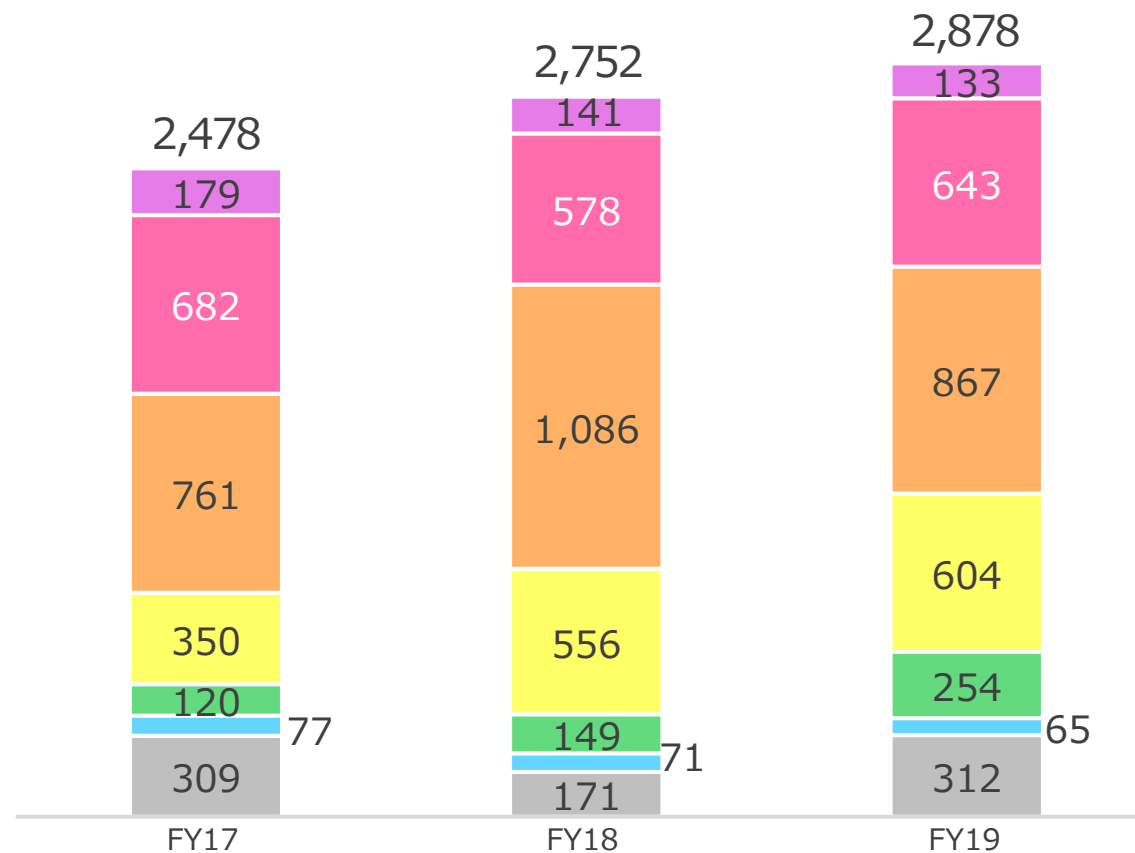
■ 半導体・部品
テストシステム事業

■ メカトロニクス
関連事業

■ サービス他

*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

<地域別受注>



■ 日本

■ 韓国

■ 台湾

■ 中国

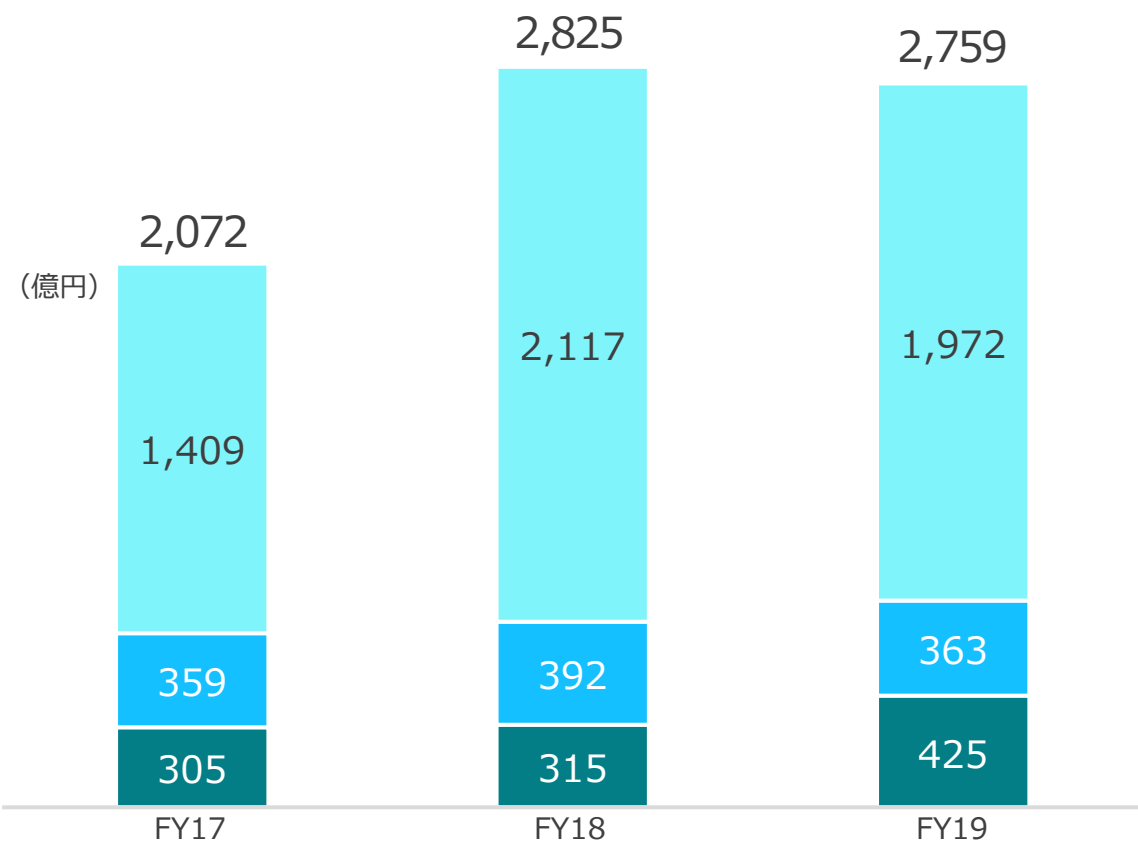
■ 米州

■ 欧州

■ その他

FY19売上実績 年度比較

<事業別売上>



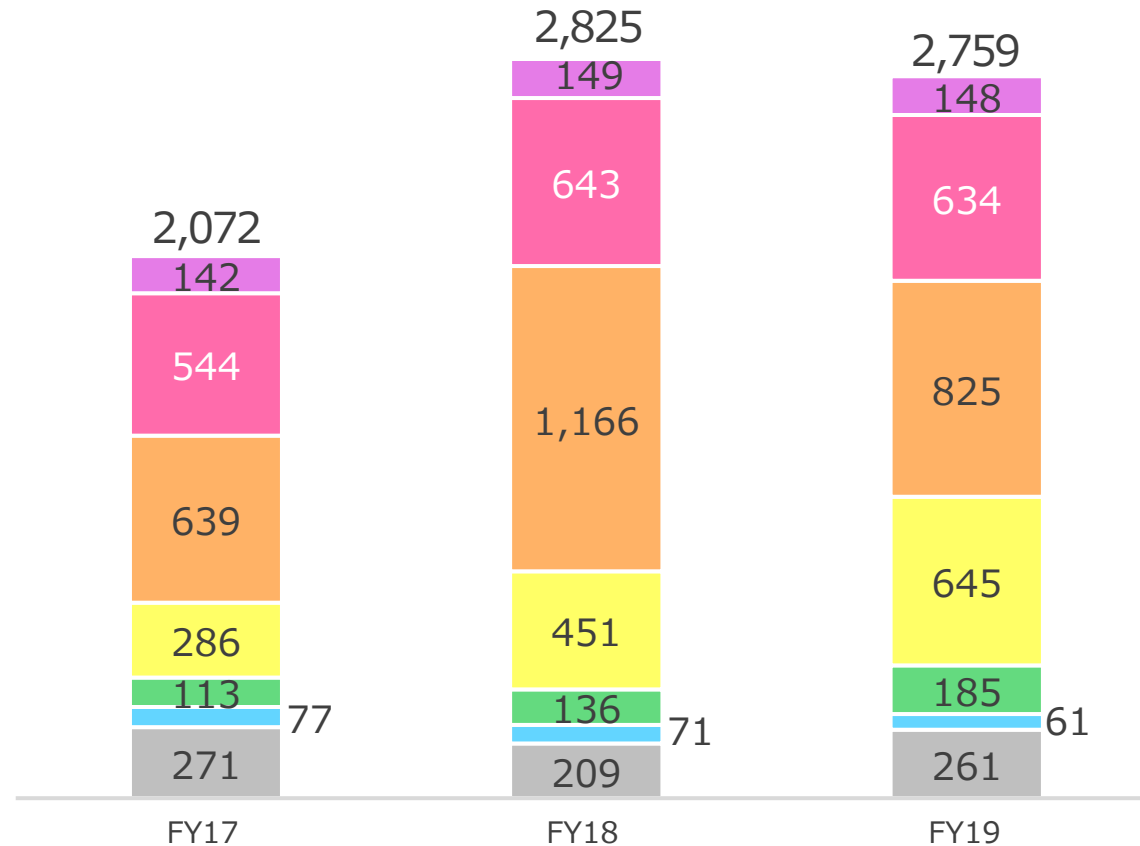
■ 半導体・部品
テストシステム事業

■ メカトロニクス
関連事業

■ サービス他

*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

<地域別売上>



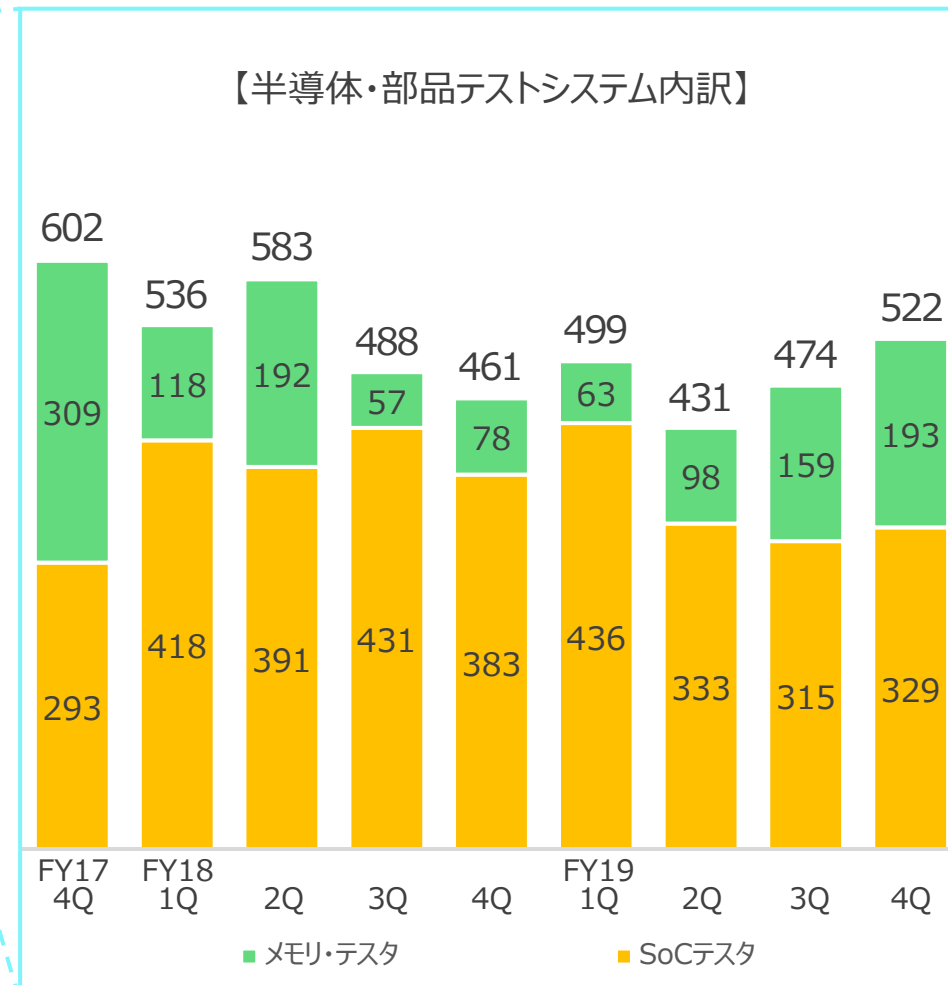
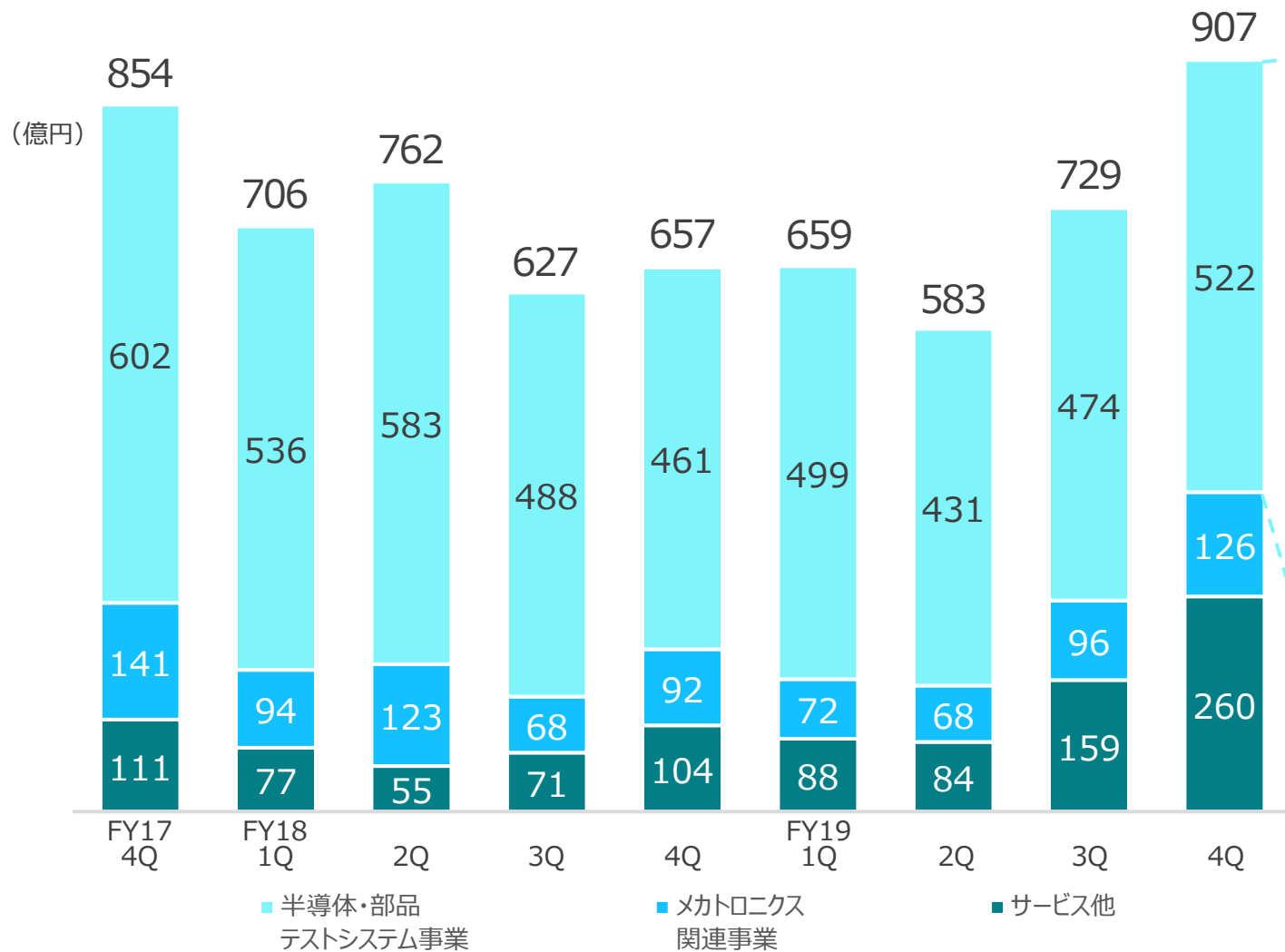
■ 日本 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ 中国 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他

四半期業績推移

(億円)

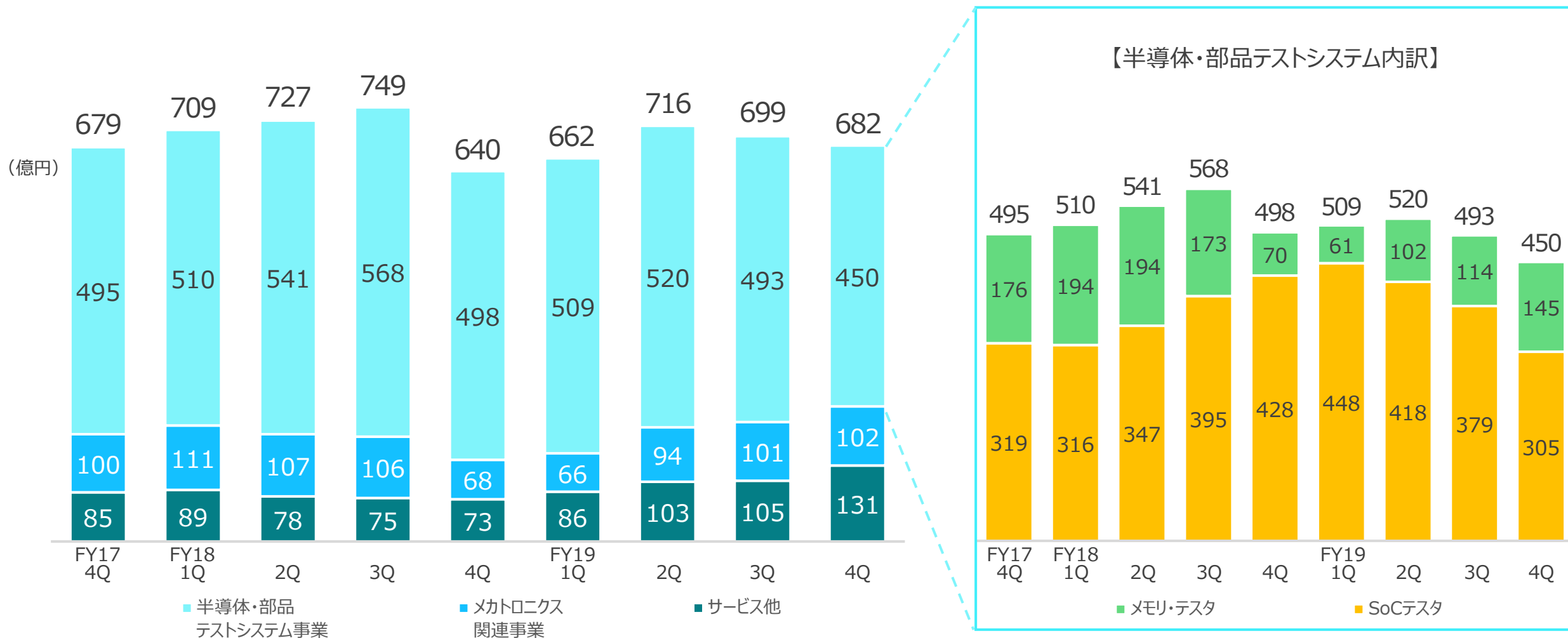
	FY18				FY18				FY19			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前期比		前年同期比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	706	762	627	657	659	583	729	907	+178	+24.4%	+251	+38.2%
売上高	709	727	749	640	662	716	699	682	-17	-2.4%	+43	+6.7%
売上総利益	382	389	425	344	394	410	394	367	-27	-6.8%	+23	+6.7%
売上総利益率	53.9%	53.6%	56.8%	53.8%	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	-2.6pts		+0.0pts	
営業利益	158	180	207	102	152	177	142	116	-27	-18.8%	+14	+13.5%
営業利益率	22.3%	24.7%	27.6%	15.9%	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	-3.4pts		+1.1pts	
税引前四半期利益	165	186	206	105	149	184	145	108	-37	-25.3%	+3	+3.1%
四半期利益	139	162	179	90	121	147	119	148	+29	+24.1%	+59	+65.7%
四半期利益率	19.6%	22.4%	23.9%	14.0%	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	4.6pts		7.7pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整	-30											
事業譲受、M&Aに伴う 受注残の増加				+24				+42				
受注残	795	830	708	749	746	613	643	910	+267	+41.5%	+161	+21.6%
為替レート	1米ドル	108円	111円	113円	111円	108円	108円	110円	2円 円安		1円 円高	
	1ユーロ	131円	129円	130円	126円	125円	121円	121円	2円 円安		5円 円高	

四半期受注高 事業セグメント別



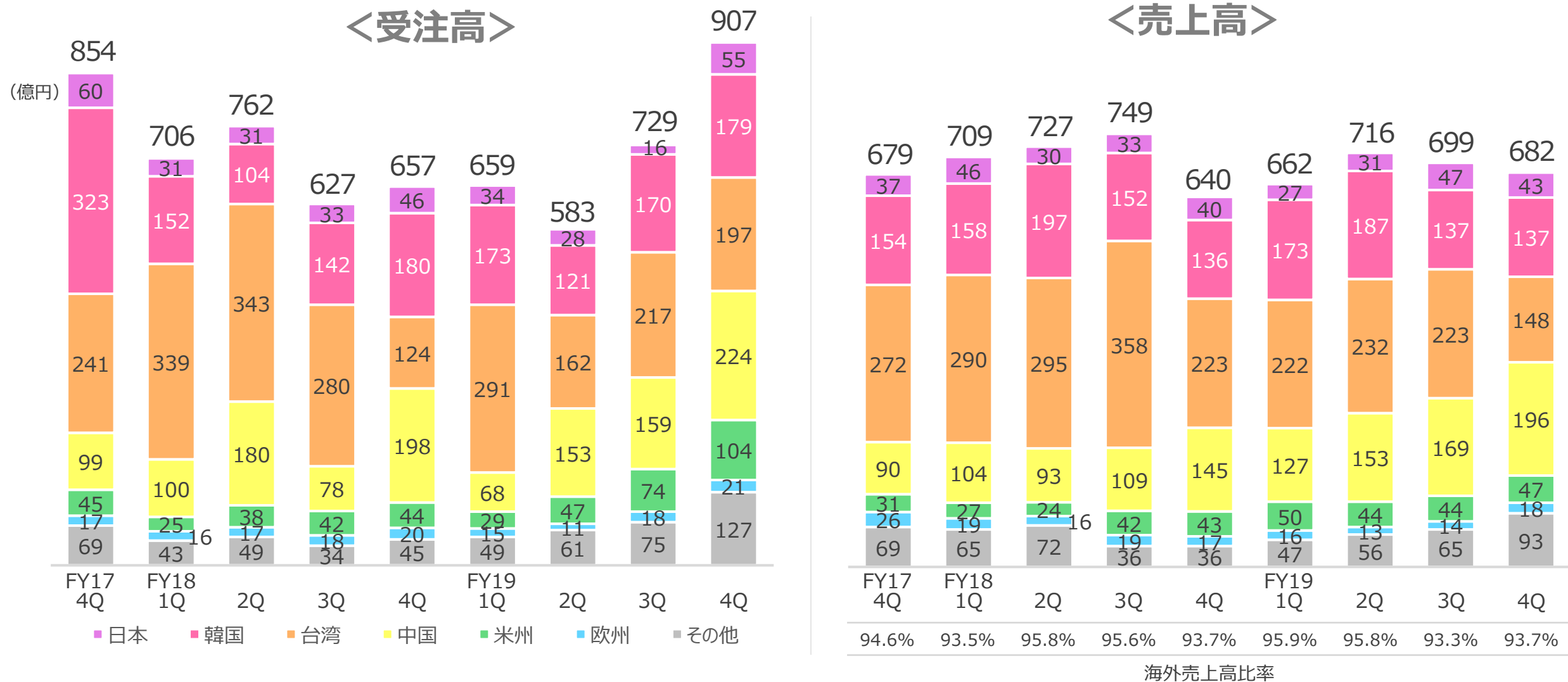
*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

四半期売上高 事業セグメント別

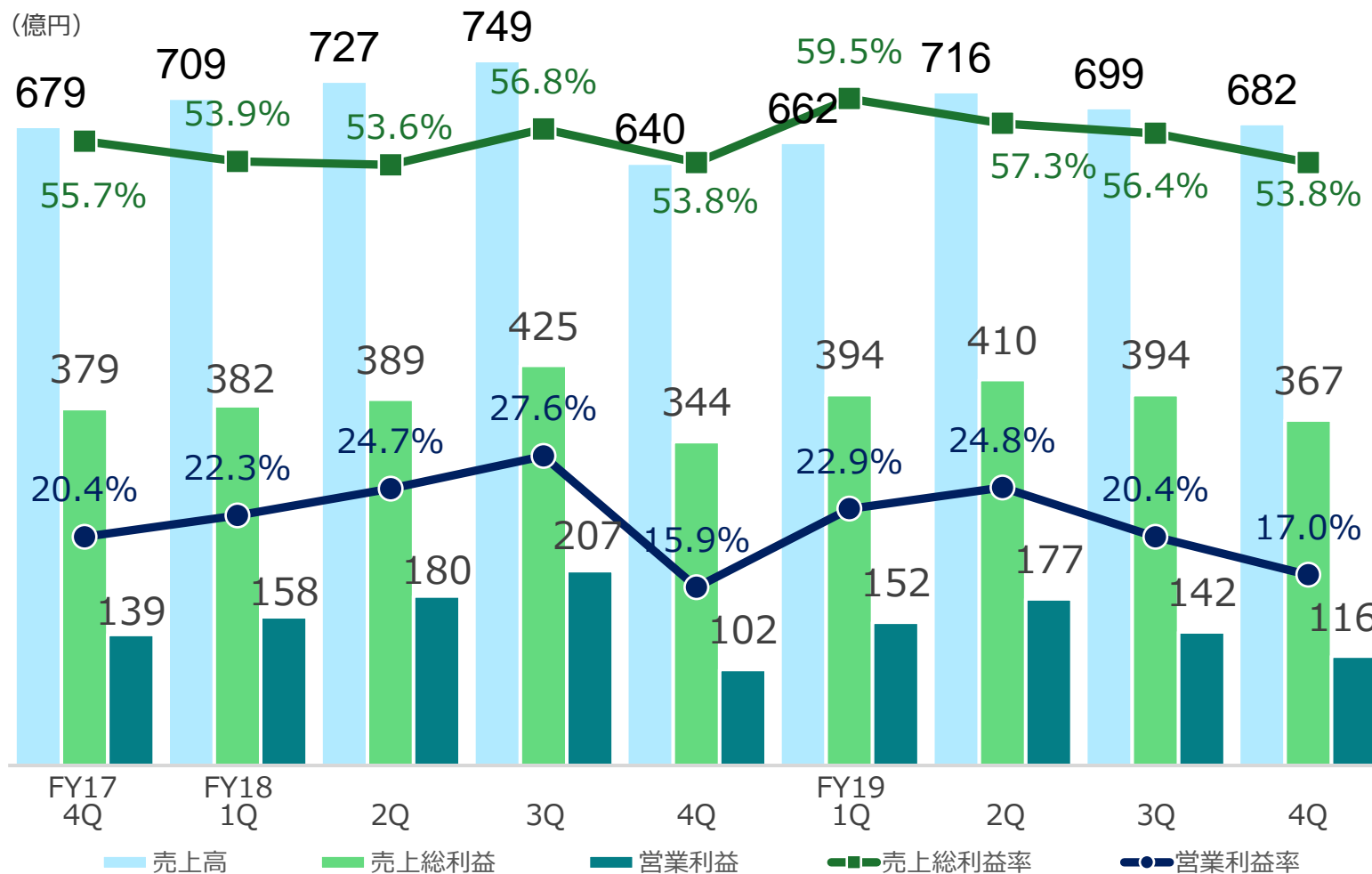


*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



売上高/売上総利益/営業利益



(億円)

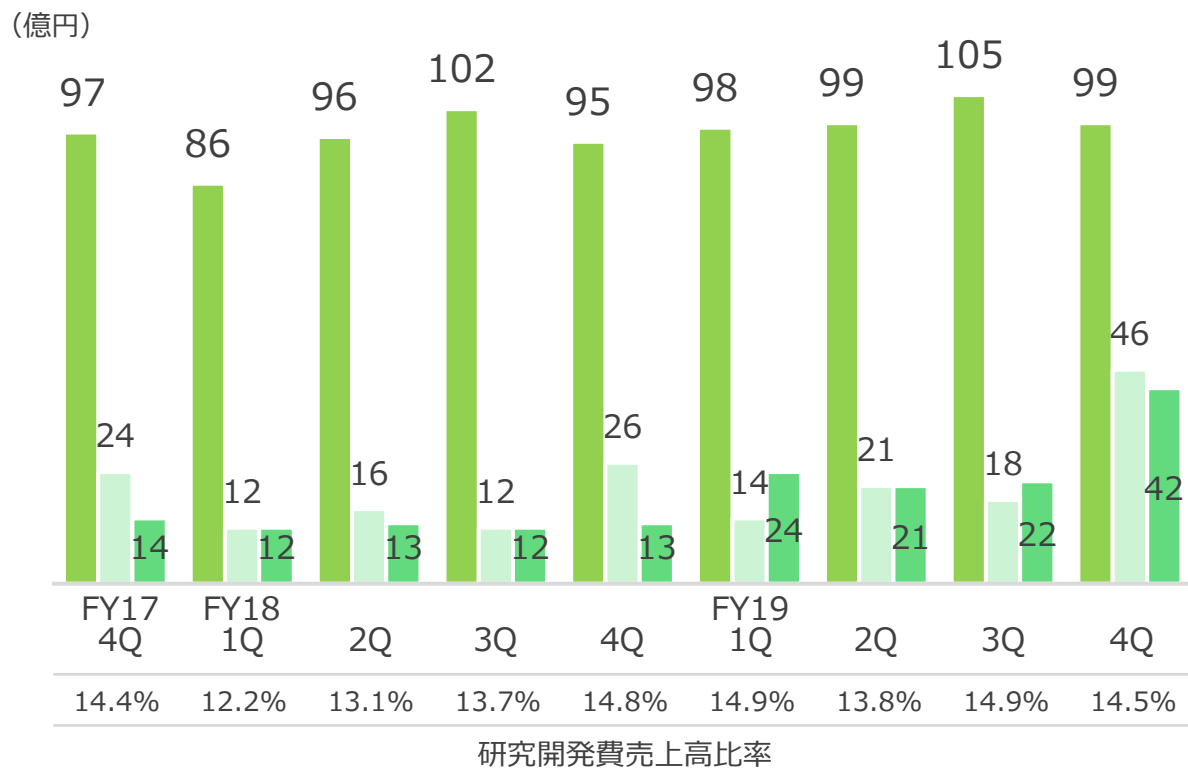
	FY18	FY19
売上高	2,825	2,759
売上総利益	1,540	1,565
売上総利益率	54.5%	56.7%
販管費等	893	978
営業利益	647	587
営業利益率	22.9%	21.3%

投資等/キャッシュ・フロー

<投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費

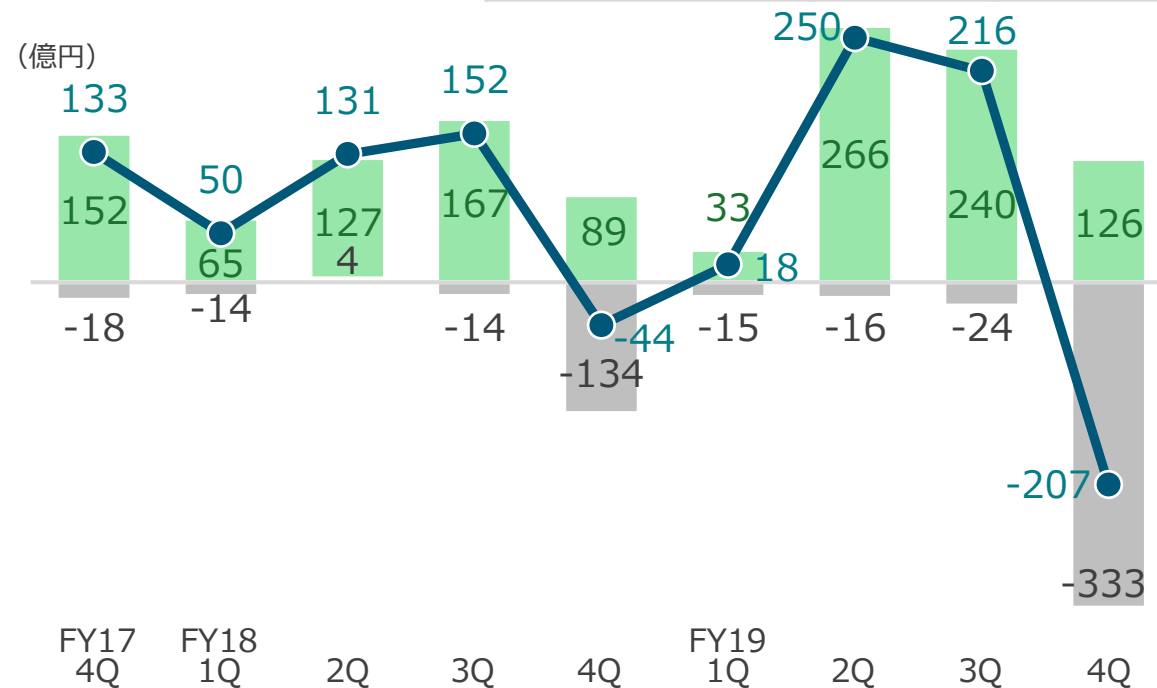
	FY18	FY19
研究開発費 売上高比率	379 13.4%	401 14.5%
設備投資	66	99
減価償却費	50	109



<キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

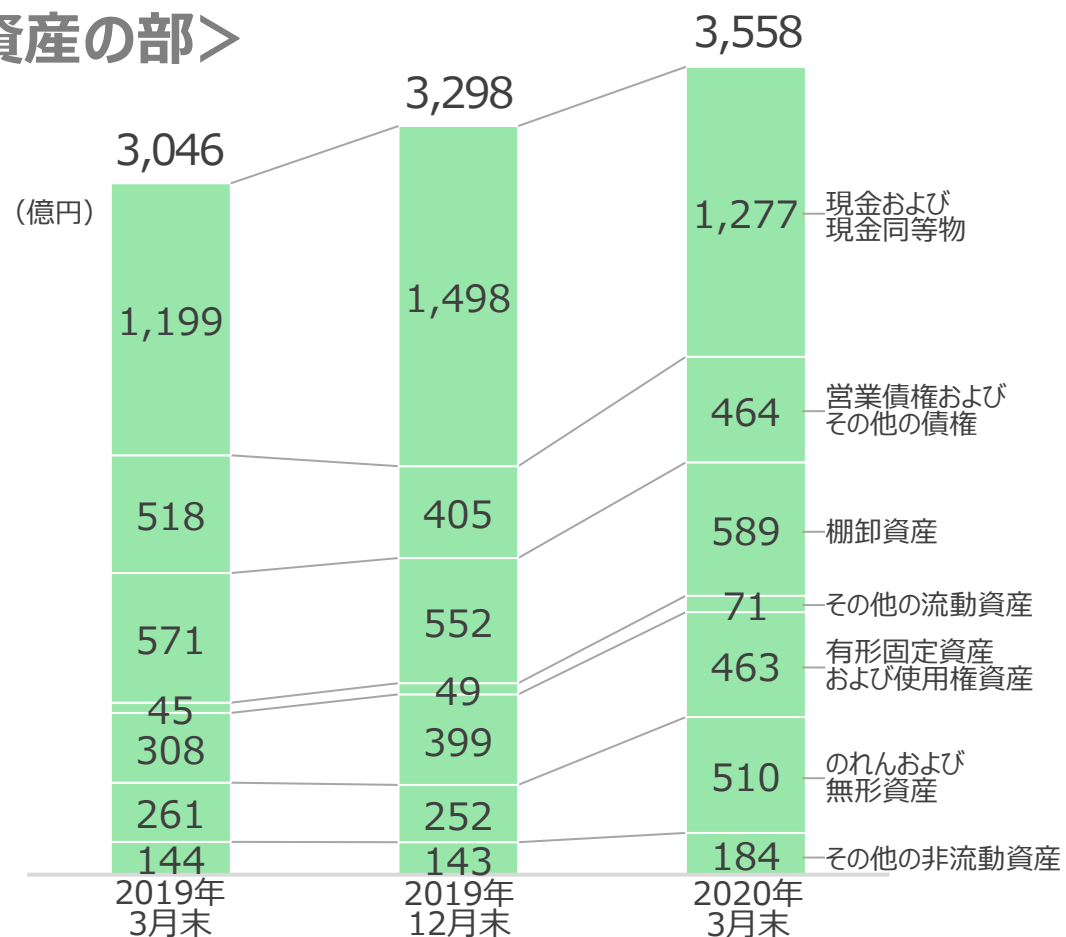
	FY18	FY19
営業キャッシュ・フロー	448	665
投資キャッシュ・フロー	▲159	▲388
フリー・キャッシュ・フロー	289	277



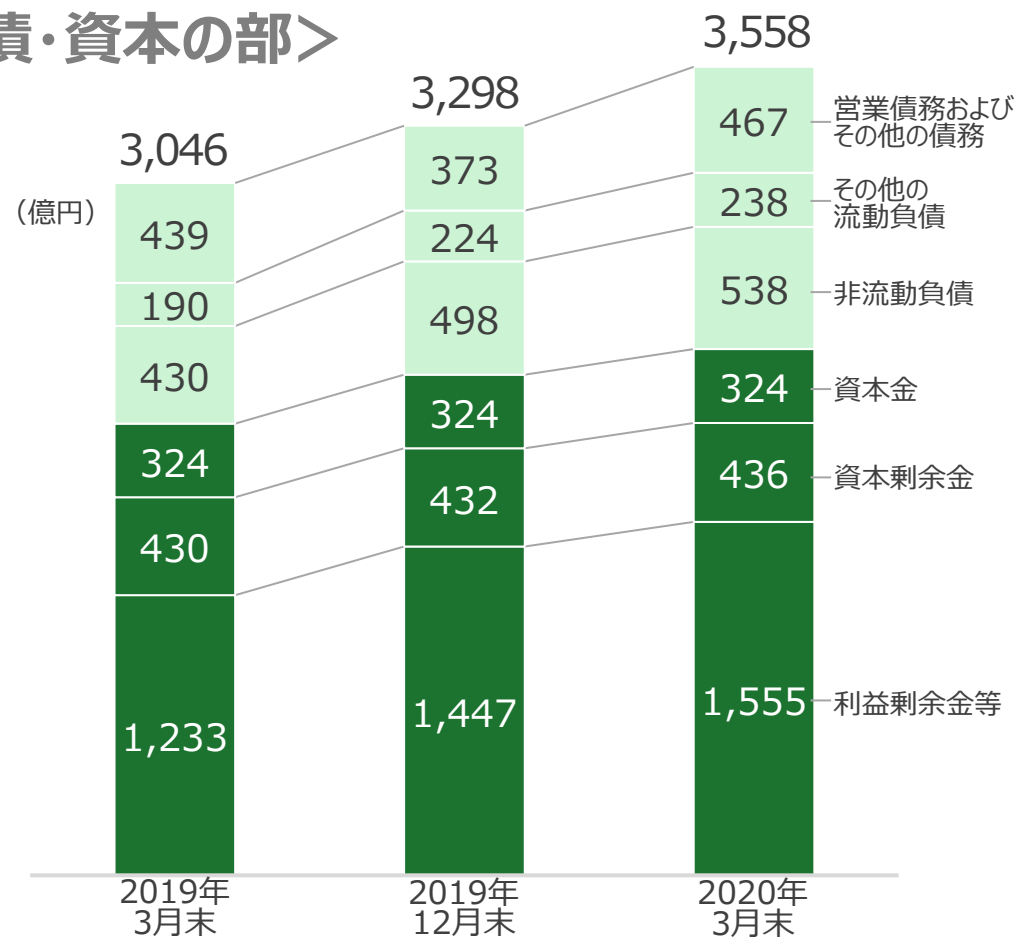
*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

連結財政状態

<資産の部>



<負債・資本の部>



親会社の所有者に 帰属する持分	1,987	2,203	2,315
親会社所有者 帰属持分比率	65.2%	66.8%	65.1%

2020年度事業見通しと中期経営計画の進捗

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

当社の中長期経営方針

「グランドデザイン」(長期経営方針・FY18-27)

<長期経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

<コスト、利益構造>

- 売上成長を目指すにあたり、コスト構造のバランスにも配慮

	3,000億円レベルでの コスト構造モデル
売上高	3,000億円
売上原価率	46%
売上高販管費比率	32%
(うちR&D費比率)	13%
営業利益率	22%

中期経営計画(FY18-20)

- 製品需要の年ごとのアップダウンは避けられないため、3カ年平均で数値目標を設定
- 新たなテスト需要に卓越したソリューションを提供し、売上高と市場シェアを伸長
- 中長期の売上成長に向け、積極的なR&D投資・M&A
- 半期連結配当性向30%を基本としつつ、成長投資見通しを勘案した上で総株主還元を機動的に検討

	中期経営計画 (FY18-20 平均)	
	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

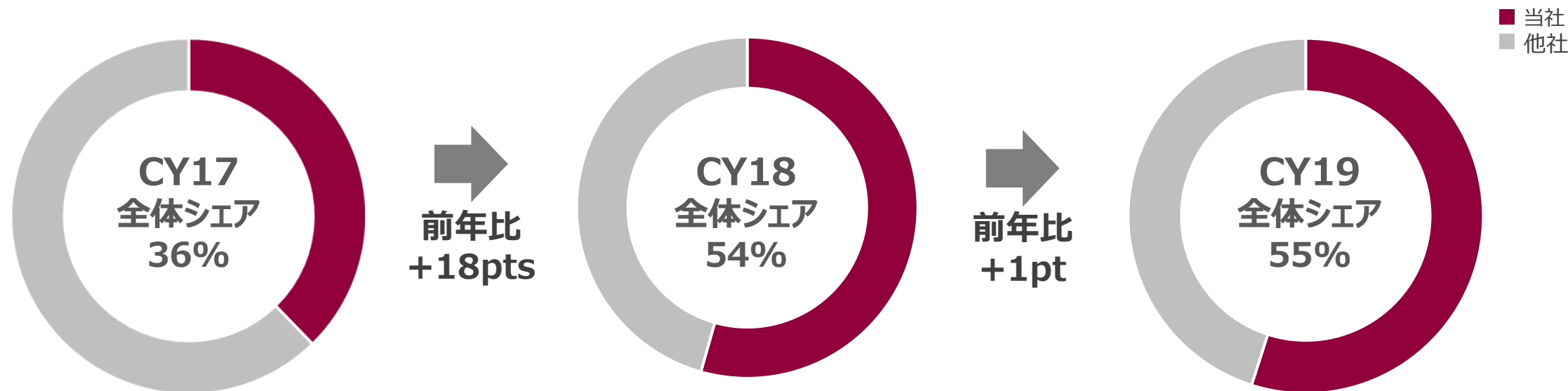
中期経営計画の進捗

	FY15-17 平均	中期経営計画 (FY18-FY20 平均)		FY18実績	FY19実績	FY18-19 平均実績
		保守的シナリオ	ベース・シナリオ			
売上高	1,751億円	2,300億円	2,500億円	2,825億円	2,759億円	2,792億円
営業利益率	9%	15%	17%	22.9%	21.3%	22.1%
ROE	12%	15%	18%	35.3%	24.9%	30.1%
1株当たり当期利益 (EPS)	74円	135円	170円	302円	270円	286円



- この2年はテスト市場拡大と市場シェア上昇により、ベース・シナリオで掲げた全てのKPIで目標値を超過
- これまでの進捗は良好であるものの、新型コロナウイルスの拡大による先行き不透明感が強いため、当初の目標値を据え置く

市場シェアの状況



	市場規模	当社シェア
SoCテスト	約\$2,200M	30%
メモリ・テスト	約750M	57%

	市場規模	当社シェア
SoCテスト	約\$2,550M	52%
メモリ・テスト	約1,150M	58%

	市場規模	当社シェア
SoCテスト	約\$2,700M	55%
メモリ・テスト	約650M	55%

Source: Advantest

中長期成長に向けた取り組み

FY19に実施した重要施策

- コアビジネスの中でも成長期待の高いハイエンドSoCの事業基盤強化に向け、人的リソースを増強
- 中長期的な事業拡大を見据えた戦略を推進
 - SoC半導体向けシステムレベル・テスト・ソリューションの拡充と新規顧客開拓
 - 今後のハイエンド半導体テスト需要拡大に即し、高精度ICソケット/サーマル・コントロールユニットを事業ポートフォリオに追加
- 企業理念体系「The Advantest Way」の見直し、統合報告書の発行

FY20重点施策

- 足元の環境変化に機動的に対応しつつ、長期的な成長に向けた投資を引き続き推進
- 半導体の高性能化やテストの重要度増進など、当社の中長期的成長を支える市場トレンドに変化が無い中、重要顧客とのエンゲージメント強化/市場シェアの維持拡大策を進める
 - 5Gのミリ波領域やハイエンド・メモリでのシェア維持・拡大
 - 工場自動化対応など、総合的な品質向上提案によるパートナーシップの強化
- 気候変動への対応などESG経営の高度化

システムレベル・テスト事業の状況

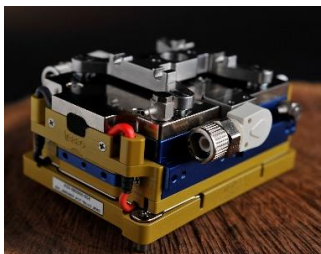
当社のソリューション

- 過年度のM&A、およびオーガニックに蓄積した要素技術を結集し、モジュール/システム、メモリからSoCまで幅広くカバー可能

ハイエンドSoC用システムレベル・テスタ



SSD用システムレベル・テスタ



サーマル・コントロール・ユニット



ICソケット

事業機会と当社の強み

- ハイエンド半導体の性能向上、回路集積度の上昇、信頼性担保の重要度上昇の流れが継続
- それらを効率的に解決できる、システムレベル・テスト (SLT) に対する半導体メーカーの関心が高まる
- 類似ソリューションは計測器メーカーなどで既に存在するが、ノウハウの幅広さと性能面で差別化。SLTのデファクト・スタンダードの最短距離に当社はポジション
- ストレージだけでなく、HPC、通信モジュール、車載モジュール向けで特に強い引き合い
- Essai社に対するM&Aは、SLTビジネスにおいて差別化をさらに進めるために企図

半導体テスト市場の動向 <20年4月時点の見方>

CY19実績

- 米中貿易摩擦激化に端を発した半導体市場の減速に見舞われたが、5G向け半導体への活発なテスト投資がSoCテスト市場の成長を牽引
- メモリ・テスト市場も、メモリ需給改善や中国企業の量産投資に支えられ、後半持ち直し

CY20予想

- ハイエンドな半導体採用を必須とする5Gやデータセンター向けのテスト需要は底堅く、暦年20年前半までは一定の需要が持続する見通し
- 一方でコロナウイルスの影響により、自動車・産機向け、ディスプレイ向け、モバイル向けで今後のテスト需要の不透明感が増しており、市場予測は現在見直し中

新型コロナウイルス感染拡大の当社への影響と対応

当社事業上の主なリスク

- 従業員等の感染による事業活動の中断と効率低下
- 世界各地の移動制限や都市封鎖が長期化することによる、製品・サービス供給能力の低下
 - 自社および委託先での製造人員確保難
 - 顧客サポート能力の低下
 - サプライチェーン寸断による部材調達難
- 世界経済の急激な悪化による最終需要減とエレクトロニクス業界全体への波及、半導体市場および半導体製造装置市場の減速
- ポストコロナ時における中長期的な市場変化の可能性
 - 顧客のサプライチェーン変動による半導体産業の構造変化
 - 人間の行動および社会の変化がもたらす事業環境の変容

当社の対応

- ステークホルダーの健康維持への配慮として、リモートワークにより顧客・サプライヤー・自社従業員の罹患リスクを低減
- 移動制限や都市封鎖の影響を軽減するため、生産地代替を推進し当社製品の供給能力とサポート能力を維持
- サプライチェーン混乱リスクを考慮した部材確保、中長期的BCPの再検討
- 顧客との情報交換を密に行い需要動向をモニタリング
- 中長期的には顧客のサプライチェーン変動や産業構造の変化にも留意

FY20業績予想

	(億円)					
	FY19				FY20	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q予想	
受注高	659	583	729	907	620	
売上高	662	716	699	682	700	
営業利益	152	177	142	116	130	
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	18.6%	
税引前四半期利益	152	177	142	108	130	
四半期利益	121	147	119	148	105	
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.0%	
事業譲受、M&Aに伴う 受注残の増加				+42		
受注残	746	613	643	910	830	
為替レート*	1米ドル	111円	108円	108円	110円	105円
	1ユーロ	125円	121円	119円	121円	120円

*為替レートの変動が今後の営業利益に与える年間ベースでの影響度予測は、対米ドルが1円高時マイナス6億円です。対ユーロはプラス1.5億円です。

サマリー

- 新型コロナウイルスによる世界経済の悪化と混乱が始まっているが、主要顧客は投資を継続中
- 不透明感が強まる中、環境変化に機動的に対応することが重要
- 中長期的な半導体の進化の方向性は不変。中長期経営方針を堅持し、将来投資を継続
- 5G/HPC、メモリといったハイエンド品のテスト需要は今後も成長。これら分野におけるリードを維持し、市場シェアの維持・向上を図る